

うさぎの耳

聴くことは社会貢献の第一歩！

76号 (2023年4月1日)
福津市社会福祉協議会内

◇ 会からのお知らせ

施設傾聴が再開されるまで、4月以降定例会、役員会は偶数月開催としますので、うさぎの耳も、偶数月発行とします。

- 1 ふれあいコール関連：3月は8件でした。
皆さんご参加頂きました、このコールも3月28日で終了し、この間に受けた件数は312件でした。
- 2 癒しのカフェ3月3日9人が参加しました。4月7日で、5月は、連休の関係で、5月12日（金）です。傾聴カフェは気軽にお話をして頂く場です。これまで参加されていない方も来て下さい。
- 3 令和5年度総会を4月20日(木)13：30から、らくらくルームで行います。
- 4 イオン黄色いレシートキャンペーン、毎月11日に行われています。レシートをボックスに入れて資金を集めましょう。

◇ 会員の広場

2022年度きずなフェスティバルに参加して

大久保 三保子 会員

2月19日、春日市クローバープラザで「福岡きずなフェスティバル」に山崎会長と参加しました。記念講演は、90歳の医師原 寛先生「令和の養生訓 100歳への挑戦」。食に関する注意とウォーキングや声出しではカラオケや仲間とののおしゃべり、人に関わりを持つこと等。ステージでは90歳と思えない動きでした。

午後の分科会では、1985年発足の「高齢者をよくする北九州女性の会」に参加。現在も代表の富安兆子さん（83歳）の、35年間のボランティア活動、378頁の本の出版等。現在の調子か、高齢社会を見据えて「遠くの親類より近くの人」。本には傾聴ボランティアの必要性和ロールプレイングも載っていました。作家の樋口恵子さんも一緒に活動されているそうで、「卒寿を迎え私もなりたや微助人（ビスクット）」の心境とのこと。会長は、「障害者分科会」に参加されました。そこでは、「盲導犬について知ろう」のタイトルの下、盲導犬訓練士及び盲導犬ユーザーから、大変興味深いお話があり参考になりました。

2022年度きずなフェスティバル参加所見

山崎 正弘 会員

3年ぶりに開催されこのフェスティバル充実した内容であったのではと思っています。基調講演では広いホールが8割方埋まっていたのではないのでしょうか。この中で、他の市町村からのボランティア団体が、バスを用意して来ていたようです。福津市からの参加は、わずか2名、市のボランティアに対する取組が低いのでは？現に市に登録されている団体は沢山ありますが、有機的活動がなされていないのでは？市当局のボランティアに対する理念、ボランティアのあり方、等の指導方針が確立していないのでは？などと感じたところです。矢張り行政が主体となる事が、必須ではないのでしょうか。

ボランティア団体も活動を市内に限ることなく、この種の催し物に積極的に参加することにより、自らの活動を見直し、視野を広げ、多くの知見を得る機会にもなります。齢を重ねると、書物をひもとくことが難儀になりますので、この種の会合に参加して、耳学問として学ぶようにしたいものです。

